17

九州帝國大學醫學部附属醫院出土の病院食器に関する考古学的考察

田尻　義了
九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

九州大学は2011（平成23）年に，創立100周年を迎えた．翌年の2012年には，大学各所で多くの関連行事が挙行されたが，埋蔵文化財を通じた九大百年に関するイベントはほとんど開催されなかった．なぜなら，九州大学の100年について埋蔵文化財を通じて考えるには，文献資料が数多く存在し，埋没した土中の資料に頼らなくてもある程度の歴史復元（大学史復元）が可能であったからである．このような研究動向にあって，本発表では九州大学馬出キャンパスより出土した病院食器を通じて，九州大学の歴史を紐解くとともに，有田焼と美濃焼の近代窯業生産地の生産体制について考察を進める．

九州大学は1911（明治44）年に九州帝國大學として発足したが，それより以前の1903（明治36）年に京都帝國大學福岡醫科大學として，現在の医学部が馬出キャンパスに設立された．その後，1911（明治44）年に工科大學が箱崎キャンパスに発足し，1919（大正8）年には，醫科大學を醫學部に，工科大學を工學部に改組して，総合大学として九州帝國大學が正式に発足した．

このような歴史がある馬出キャンパスを発掘調査したところ，「大學」「醫院」という銘が入った病院食器が多数出土した．現在の病院ではなく「醫院」と記載されていることから，帝國大學時代の製品である．調査を進めていたところ，この「醫院」マークと極めて類似したマークを施した製品が，京都大学病院構内の発掘調査品で発見された．前述したように九州大学と京都大学は設立当初関係があったことから，このような類似したマークが使用されたと考えられる．その後，追跡調査を行ったところ，東京大学病院出土品にはそのマークが施された食器は出土しておらず，また京都大学と東京大学では同じ美濃のメーカーが製品を納品していたことも判明した．そこで，京都・東京大学出土品から美濃焼の生産体制を，九州大学出土品から有田焼の生産体制を復元し両地域の比較を行い，近代陶磁器の生産体制の復元を行った．その結果，両地域の生産体制には大手メーカーの存在の有無と生産組合との関係が製品の差として現れていると結論づけた．